

科目名	人体の構造 I		科目ナンバリング	N-FN HB 1-00. H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	科目コード			N20002	時間	30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	田中 真実			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	無								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>教科書、ぜんぶわかる人体解剖図(坂井建雄/橋本尚詞)を用いて、看護の対象となる人体の構造について基礎知識を学ぶ。身体の部位、器官の位置・方向についての表現法、人体を構成する各器官や臓器の正しい名称と位置関係を学び、必要な解剖用語を学ぶ。人体の内部にある各器官を、自分自身の身体内部に投射・対比させ、器官の位置関係を学ぶ。更に、3D解剖アプリケーションAnatomy & Physiology (Visible Body) の動画を視聴し理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの1,2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 人体の各部位の表し方、臓器や各器官の名称とそれらの位置、それぞれの器官の構造について基礎知識を身につけることができる。2. 人体の内部にある各器官を、自分自身の身体内部に投射・対比させ、器官の位置関係を理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	細胞の概要、新型コロナウイルス		ガイダンス、細胞と遺伝。新型コロナウイルスについて。							
第2回	脳と神経 I		ぜんぶわかる人体解剖図114～121頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第3回	脳と神経 II		ぜんぶわかる人体解剖図76～81, 84, 85, 88～89頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第4回	脳と神経 III		ぜんぶわかる人体解剖図82, 83, 86, 87頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第5回	骨と筋肉 I		ぜんぶわかる人体解剖図30～37頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第6回	骨と筋肉 II		ぜんぶわかる人体解剖図38～45, 98～105, 172～177頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第7回	骨と筋肉 III		ぜんぶわかる人体解剖図220～227頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第8回	骨と筋肉 IV		ぜんぶわかる人体解剖図228～235頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第9回	消化器 I		ぜんぶわかる人体解剖図62～67, 138, 139, 142, 143頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第10回	消化器 II		ぜんぶわかる人体解剖図178～187頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第11回	消化器 III		ぜんぶわかる人体解剖図188～197頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第12回	循環器 I		ぜんぶわかる人体解剖図46, 47, 160～167頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第13回	循環器 II		ぜんぶわかる人体解剖図48～53頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第14回	循環器 III		ぜんぶわかる人体解剖図106～109頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第15回	循環器 IV		ぜんぶわかる人体解剖図110～113頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
評価方法及び評価基準	講義毎に出欠を取り、2/3以上の出席者を定期試験の受験資格とする。授業参加・態度とスケッチの提出(40%)、定期試験の得点(60%)によって総合的に評価する。									
課題等	提出したスケッチは、済印を押し返却します。									
事前事後学修	予習・復習をすること。普段から人体の構造について興味をもつこと。									
教材教科書参考書	教科書：ぜんぶわかる人体解剖図、坂井建雄/橋本尚詞(成美堂出版) ISBN:978-4-415-30619-3(必ず購入し、持参してください。) 参考書：「なぜ？」からはじめる解剖生理学、松村 譲児(ナツメ社) ISBN:978-4-8163-6294-1、入門人体解剖学改訂第5版、藤田恒夫(南江堂) ISBN:978-4-524-24237-5									
留意点	ぜんぶわかる人体解剖図・「なぜ？」からはじめる解剖生理学を熟読し、予習・復習を行うこと。各自、指定された部位をスケッチし・着色し、引出し線を用いて名称及び簡単な説明を記入して、指定日までに提出してください。提出したスケッチブックは、代表者が次の授業前まで取りに来てください。 B5サイズ方眼ノート(100均)、スケッチブック白色B4(maruman:縦352×横251mm等)、鉛筆(H)、鉛筆削り(100均)、色鉛筆12色以上(100均)、消しゴム、定規を各自用意してください。									

科目名	人体の構造 I		科目ナンバリング	N-FN HB 1-00. H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	科目コード			N20002	時間	30時間				
区分	看護基礎科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	田中 真実			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>教科書、ぜんぶわかる人体解剖図(坂井建雄/橋本尚詞)を用いて、看護の対象となる人体の構造について基礎知識を学ぶ。身体の部位、器官の位置・方向についての表現法、人体を構成する各器官や臓器の正しい名称と位置関係を学び、必要な解剖用語を学ぶ。人体の内部にある各器官を、自分自身の身体内部に投射・対比させ、器官の位置関係を学ぶ。更に、3D解剖アプリケーションAnatomy & Physiology (Visible Body) の動画を視聴し理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2,3,4,5に関連し、カリキュラムポリシーの1,2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 人体の各部位の表し方、臓器や各器官の名称とそれらの位置、それぞれの器官の構造について基礎知識を身につけることができる。2. 人体の内部にある各器官を、自分自身の身体内部に投射・対比させ、器官の位置関係を理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	細胞の概要、新型コロナウイルス		ガイダンス、細胞と遺伝。新型コロナウイルスについて。							
第2回	脳と神経 I		ぜんぶわかる人体解剖図114～121頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第3回	脳と神経 II		ぜんぶわかる人体解剖図76～81, 84, 85, 88～89頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第4回	脳と神経 III		ぜんぶわかる人体解剖図82, 83, 86, 87頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第5回	骨と筋肉 I		ぜんぶわかる人体解剖図30～37頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第6回	骨と筋肉 II		ぜんぶわかる人体解剖図38～45, 98～105, 172～177頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第7回	骨と筋肉 III		ぜんぶわかる人体解剖図220～227頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第8回	骨と筋肉 IV		ぜんぶわかる人体解剖図228～235頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第9回	消化器 I		ぜんぶわかる人体解剖図62～67, 138, 139, 142, 143頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第10回	消化器 II		ぜんぶわかる人体解剖図178～187頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第11回	消化器 III		ぜんぶわかる人体解剖図188～197頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第12回	循環器 I		ぜんぶわかる人体解剖図46, 47, 160～167頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第13回	循環器 II		ぜんぶわかる人体解剖図48～53頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第14回	循環器 III		ぜんぶわかる人体解剖図106～109頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
第15回	循環器 IV		ぜんぶわかる人体解剖図110～113頁を学習、指定された項目をスケッチする。WEBを視聴し理解を深める。						ディスカッション、スケッチの提出	
評価 方法 及び 評価 基準	講義毎に出欠を取り、2/3以上の出席者を定期試験の受験資格とする。授業参加・態度とスケッチの提出(40%)、定期試験の得点(60%)によって総合的に評価する。									
課題等	提出したスケッチは、済印を押し返却します。									
事前事後学修	予習・復習をすること。普段から人体の構造について興味をもつこと。									
教材 教科書 参考書	教科書：ぜんぶわかる人体解剖図、坂井建雄/橋本尚詞(成美堂出版) ISBN:978-4-415-30619-3(必ず購入し、持参してください。) 参考書：「なぜ?」からはじめる解剖生理学、松村 譲児(ナツメ社) ISBN:978-4-8163-6294-1、入門人体解剖学改訂第5版、藤田恒夫(南江堂) ISBN:978-4-524-24237-5									
留意点	ぜんぶわかる人体解剖図・「なぜ?」からはじめる解剖生理学を熟読し、予習・復習を行うこと。各自、指定された部位をスケッチし・着色し、引出し線を用いて名称及び簡単な説明を記入して、指定日までに提出してください。提出したスケッチブックは、代表者が次の授業前まで取りに来てください。 B5サイズ方眼ノート(100均)、スケッチブック白色B4(maruman:縦352×横251mm等)、鉛筆(H)、鉛筆削り(100均)、色鉛筆12色以上(100均)、消しゴム、定規を各自用意してください。									

科目名	人体の機能 I		科目ナンバリング	N-FN HB 1-02. H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	看護基礎科目	必修	科目コード	N20004	時間	30時間				
区分	アクティブラーニング	有	担当者名	宇田 宗弘			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>看護ケアは症状（痛い、苦しいなど患者自身が自覚するもの）や徴候（客観的に他人が観察できるもの）、検査結果などの情報に基づいて行われます。症候（症状と徴候）は人体の正常な機能や形態が破綻したときにあらわれます。したがって、人体の正常な機能や形態についての十分な知識を身につけることは、症候を理解するためや、さらには各患者への適切な看護ケアを考えるためにも必要不可欠です。人体の機能 I では生命を維持するための正常な植物機能を理解するとともに、それらの機能が破綻した状態（病態生理）を学習します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 5に関連する。カリキュラムポリシーの2, 9に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 呼吸と血液のはたらき、血液の循環とその調節、栄養の消化と吸収、体液の調節と尿の生成についての基本的な機能を理解し、説明することができる。 人体の正常な機能や形態が破綻することにより生じる症候を理解し、なぜそのような症候があらわれるのかを生理学の専門用語を用いて、臨床で活用可能な知識として説明することができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	授業の進め方と人体の機能（生理学）の概要を説明する。		授業の進め方、特にチーム基盤型学習（グループワーク）について、評価方法（学習内容の要約の提出、ピア評価、レポート、定期テスト）の説明、参考書の紹介など。					講義、シラバスを必ず持参すること。		
第2回	呼吸のはたらきとその異常		呼吸運動とその調節、呼吸気量、					講義		
第3回	呼吸のはたらきとその異常		ガス交換とガスの運搬、肺の循環と血流、呼吸器系の病態生理					講義		
第4回	呼吸のはたらきとその異常		呼吸器系の病態生理					グループワーク		
第5回	体液・血液のはたらきとその異常		体液・赤血球、酸素分圧とヘモグロビンの酸素飽和度との関係					講義		
第6回	血液のはたらきとその異常		赤血球の機能とその異常、赤血球の破壊、					講義、レポート提出		
第7回	血液のはたらきとその異常		血液型、血液の凝固と線維素溶解、血漿タンパク質と赤血球沈降速度、					講義		
第8回	血液の循環とその調節、およびその異常		心臓の機能、心臓（心筋細胞）の興奮とその伝播、心電図					講義		
第9回	血液の循環とその調節、およびその異常		血圧、血液の循環、血流量の調節					講義		
第10回	血液の循環とその調節、およびその異常		循環器系の病態生理、リンパ					講義		
第11回	血液の循環とその調節、およびその異常		血液・呼吸循環器系における病態生理					グループワーク		
第12回	栄養の消化と吸収、およびその異常		口・咽頭・食道・胃・腸の機能、栄養素の吸収と消化					講義		
第13回	栄養の消化と吸収、およびその異常		大腸・膵臓・肝臓・胆嚢の機能、消化器系の病態生理					講義、レポート提出		
第14回	体液の調節と尿の生成、およびその異常		糸球体、尿細管の機能、傍糸球体装置、クリアランスと糸球体濾過量、					講義		
第15回	体液の調節と尿の生成、およびその異常		腎臓から分泌される生理活性物質、体液の調節、尿の貯蔵と排尿					講義		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、グループワークでのピア評価（10%、10点）、チーム基盤型学習（グループワーク）の内容に関するレポート（30%、30点）、定期テスト（60%、60点）の合計100%（100点）として、60%（60点）以上を合格とします。グループワークに関するレポートは、ルーブリックを用いて評価します。									
課題等	チーム基盤型学習（グループワーク）で学習する内容については必ず事前に調べておくこと。調べる際には教科書だけではなく図書館を利用すること。授業には参考文献のコピーなどの資料を準備して臨むこと。レポートはコメントを付けて返却します。一定の点数以下のレポートは書き直して再提出を求めます。									
事前事後学修	事前事後学習（予習と復習）は各1時間程度行ってください。また各学習項目に対応する「ここだけ見れば〇〇がわかる！」を読み、さらに本文の該当ページにも目を通して、学修領域を把握し、図表への理解を深めておくこと。チーム基盤型学習（グループワーク）で学習する内容は事前に提示しますので、事前に調べ、授業に参加してください。復習では、学習した内容をもとに「臨床場面で考えてみよう」をまとめ、また「解剖生理学が臨床につながる！」を読むことで臨床とのつながりを学び理解を深めること。さらに学習到達度チェックを行うこと。									
教材教科書参考書	教科書：ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①、解剖生理学（第5版）、武田裕子・林正健二 編、MCメディカ出版、ISBN 978-4-8404-7831-1（必ず購入してください。） 参考書（購入する必要はありません）：①系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①、医学書院、②なるほどなっとく！解剖生理学 改定2版、南山堂、多久和 典子、多久和 陽 著、③病気がみえるシリーズ、看護がみえるシリーズ（メディックメディア）など。									
留意点	レポートは必ず各自が書くこと。レポートの評価については授業内で説明します。またMicrosoft Teamsを使用しますので、オンライン授業の準備をしておいてください。									

科目名	人体の機能Ⅱ		科目ナンバリング	N-FN HB 1-03. H N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	後期	
	看護基礎科目	必修	科目コード	N20005	時間	30時間					
区分	アクティブラーニング	有	担当者名	宇田 宗弘				授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>看護ケアは症状（痛い、苦しいなど患者自身が自覚するもの）や徴候（客観的に他人が観察できるもの）、検査結果などの情報に基づいて行われます。症状（症状と徴候）は人体の正常な機能や形態が破綻したときにあらわれます。したがって、人体の正常な機能や形態についての十分な知識を身につけることは、症状を理解するためや、さらには各患者への適切な看護ケアを考えるためにも必要不可欠です。人体の機能Ⅱでは生命を活用する動物機能、人体を保護して種を保存する機能を理解するとともに、それらの機能が破綻した状態（病態生理）を学習します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 5に関連する。カリキュラムポリシーの2, 9に関連している。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体機能の防御と適応、内臓機能の調節、情報の受容と処理、生殖・発生と老化のしくみ、身体の支持と運動についての基本的な機能を理解し、説明することができる。 2. 人体の正常な機能や形態が破綻することにより生じる症状を理解し、なぜそのような症状があらわれるのかを生理学の専門用語を用いて、臨床で活用可能な知識として説明することができる。 										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容							備 考	
第1回	授業の進め方の説明。		授業の進め方の説明。特にチーム基盤型学習（グループワーク）と、評価方法（確認テスト、ピア評価、レポート、定期テスト）と、レポートの書き方などの説明。							講義	
第2回	身体機能の防御と適応、およびその異常		免疫のしくみ							グループワーク	
第3回	身体機能の防御と適応、およびその異常		代謝、運動とエネルギー熱の出納、体温の分布と測定、体温調節、発熱、高体温と低体温							講義	
第4回	内蔵機能の調節、およびその異常		視床下部一下垂体、甲状腺と副甲状腺、膵臓、副腎、性腺、内分泌系の病態生理							講義	
第5回	内蔵機能の調節、およびその異常		内分泌系・代謝の病態生理							グループワーク	
第6回	内蔵機能の調節、およびその異常		視床下部一下垂体、甲状腺と副甲状腺、膵臓、副腎、性腺、内分泌系の病態生理							講義	
第7回	内蔵機能の調節、およびその異常		視床下部一下垂体、甲状腺と副甲状腺、膵臓、副腎、性腺、内分泌系の病態生理							講義、レポート提出	
第8回	情報の受容と処理、およびその異常		脳・脊髄の構造と機能、脊髄神経と脳神経の機能							講義	
第9回	情報の受容と処理、およびその異常		脳・神経系の病態生理							グループワーク	
第10回	情報の受容と処理、およびその異常		脳波と睡眠、記憶、本能行動と情動行動、中枢神経系の障害							講義	
第11回	情報の受容と処理、およびその異常		末梢神経、反射、自律神経系							講義、レポート提出	
第12回	情報の受容と処理、およびその異常		聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚、痛みの分類、疼痛の発生機序、感覚器の病態生理							講義	
第13回	身体の支持と運動、およびその異常		骨の発生と成長、骨の生理的な機能、骨格筋の作用、骨格筋の神経支配、上肢の運動、下肢の運動、骨格筋の収縮機構、筋骨格系の病態生理							講義	
第14回	生殖・発生と老化のしくみ、およびその異常		生殖機能、生殖細胞と受精、初期発生と着床、胎児と胎盤							講義	
第15回	生殖・発生と老化のしくみ、およびその異常		生殖細胞と受精、初期発生と着床、胎児と胎盤、小児期の成長、老化							講義	
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、グループワークでのピア評価（10%、10点）、チーム基盤型学習（グループワーク）の内容に関するレポート（30%、30点）、定期テスト（60%、60点）の合計100%（100点）として、60%（60点）以上を合格とします。グループワークに関するレポートは、ルーブリックを用いて評価します。										
課題等	チーム基盤型学習（グループワーク）で学習する内容については必ず事前に調べておくこと。調べる際には教科書だけではなく図書館を利用すること。授業には参考文献のコピーなどの資料を準備して臨むこと。レポートはコメントを付けて返却します。一定の点数以下のレポートは書き直して再提出を求めます。										
事前事後学修	事前事後学修（予習と復習）は各1時間程度行ってください。また各学習項目に対応する「ここだけ見れば〇〇がわかる！」を読み、さらに本文の該当ページにも目を通して、学修領域を把握し、図表への理解を深めておくこと。チーム基盤型学習（グループワーク）で学習する内容は事前に提示しますので、事前に調べ、授業に参加してください。復習では、学習した内容をもとに「臨床場面で考えてみよう」をまとめ、また「解剖生理学が臨床につながる！」を読むことで臨床とのつながりを学び理解を深めること。さらに学習到達度チェックを行うこと。										
教材教科書参考書	教科書：ナースング・グラフィカ人体の構造と機能①、解剖生理学（第5版）、武田裕子・林正健二 編、MCメディカ出版、ISBN 978-4-8404-7831-1（必ず購入してください。） 参考書（購入する必要はありません）：①系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①、医学書院、②なるほどなっとく！解剖生理学 改定2版、南山堂、多久和 典子、多久和 陽 著、③病気がみえるシリーズ、看護がみえるシリーズ（メディックメディア）など。										
留意点	レポートは必ず各自が書くこと。レポートの評価については授業内で説明します。またMicrosoft Teamsを使用しますので、オンライン授業の準備をしておいてください。										

科目名	病理学		科目ナンバリング	N-FN PR 1-04. H N	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
	看護基礎科目	必修	科目コード	N20006	時間	30時間				
区分	看護基礎科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	鬼島 宏・鎌滝章央・吉澤忠司・ 後藤慎太郎・鈴木俊顕			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>疾患(病気)の成り立ちや原因について、概括的に学びます。 さらに、疾患に伴い患者の身体で、どのような変化が生じているかを学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの4に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1) 人体の構造と機能を基盤として、疾患(病気)の基本的変化である代謝障害・循環障害・炎症・免疫異常・腫瘍などの概念を身につける。</p> <p>2) 循環器・呼吸器・造血器・消化器・泌尿生殖器・運動器・神経系などの各臓器における主要な疾病を学修する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	病理学概論、病理組織細胞診断		病理学とはどのような学問分野であるかという概説。臨床医学における病理組織細胞診断の位置づけ。					4/11 鬼島 宏 アクティブラーニング (ディスカッション)		
第2回	細胞・組織の損傷と修復・再生		細胞・組織の損傷によって引き起こされる身体の変化。細胞・組織の修復・再生のメカニズム。					4/18 鎌滝章央		
第3回	代謝障害、循環障害		代表的な代謝障害・循環障害の病態(脂質代謝異常・血栓・塞栓・梗塞など)。					4/25 鎌滝章央		
第4回	炎症、免疫機能の異常		代表的な炎症・免疫異常の病態(急性炎症・慢性炎症・アレルギーなど)。					5/02 鎌滝章央		
第5回	感染症、遺伝子異常		代表的な感染症・遺伝子異常の病態(細菌感染・ウイルス感染・単一遺伝子異常・多因子遺伝など)。					5/09 鎌滝章央		
第6回	腫瘍 1		代表的な腫瘍の病態(良性腫瘍・悪性腫瘍・腫瘍の組織型など)。					5/16 鈴木俊顕		
第7回	腫瘍 2、先天異常		代表的な腫瘍・先天異常の病態(腫瘍の発育進展・転移・先天奇形・染色体異常など)。					5/23 鈴木俊顕		
第8回	循環器・内分泌器の疾患		代表的な循環器・内分泌器の疾患(心筋梗塞・動脈硬化症・甲状腺癌など)。					5/30 後藤慎太郎		
第9回	呼吸器の疾患		代表的な呼吸器の疾患(肺炎・肺癌など)。					6/6 後藤慎太郎		
第10回	消化管の疾患		代表的な消化管の疾患(食道癌・消化性潰瘍・胃癌・大腸癌など)。					6/13 吉澤忠司		
第11回	肝・胆・膵の疾患		代表的な肝・胆・膵の疾患(肝炎・肝硬変・胆石症・膵炎など)。					6/20 吉澤忠司		
第12回	造血・リンパ組織の疾患		代表的な造血・リンパ組織の疾患(貧血・白血病・リンパ腫など)。					6/27 後藤慎太郎		
第13回	女性生殖器・乳腺の疾患		代表的な女性生殖器・乳腺の疾患(子宮癌・卵巣腫瘍・乳癌など)。					7/4 鈴木俊顕		
第14回	泌尿器・男性生殖器・皮膚の疾患		代表的な泌尿器・男性生殖器・皮膚の疾患(腎炎・前立腺癌・皮膚癌など)。					7/11 吉澤忠司		
第15回	運動器・神経系の疾患		代表的な運動器・神経系の疾患(関節リウマチ・骨軟部腫瘍・アルツハイマー病など)。					7/18 鬼島 宏 アクティブラーニング (ディスカッション)		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>定期試験100%</p> <p>到達目標に対応して、疾患の基本概念を理解することを前提に、病態に対する洞察力を試す問題を出します。答案の構成や論理性を重点的に評価します。</p> <p>試験で成績不良の学生に対しては、再試験を行う可能性があります。</p>									
課題等	特になし。									
事前 事後 学修	<p>事前は、教科書に記載されている主要な疾患(病気)の名称を理解しておいてください。</p> <p>事後は、授業中に重要であると示された疾患について、教科書を用いて説明できるようにしてください。</p>									
教材 教科書 参考書	医療系学生のための病理学 第5版 中村仁志夫／石津明洋／田中伸哉／鬼島宏・編 講談社サイエンティフィク ISBN 978-4-06-527953-3									
留意点	授業で不明な点は、積極的に質問してほしい。授業後の質問も歓迎します。									

科目名	薬理学		科目ナンバリング	N-FN PR 1-05. H N	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期	
			科目コード	N20007	時間	30時間					
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	長友 克広、新岡 丈典、工藤 正純 古川 智範、丹羽 康貴				授業形態	講義	オムニバス	
	アクティブラーニング	無									
授業の概要	<p>[授業の主旨] 薬理学とは単に薬の名前と何の病気に効くのかを覚えれば良い科目ではない。薬をどうやったら効かせることができ、薬はその病気にどうやって効くのかを知り、そのためにはその病気がどうやって起こるのかを知る必要がある。その薬は化学物質であり、ヒトの体の中でどのような形で存在し、どのくらいの量が必要で、副作用とはどういうことで、薬の飲み合わせではどんなことが起こり、それを防ぐためにはどうしたら良いのか等々を、薬力学、薬物動態学、薬物遺伝学、臨床薬理学、毒科学といった科学に則った薬物治療学を学習する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2～6に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>										
到達目標	現代の医療はチーム医療である。特に看護師は患者と一番面と向かう職種である。患者と医師の橋渡しの役割も要求される。そんな時、間違った薬の知識や憶測で患者に接することは許されない。薬の投与にあたっては、常に考え、患者を慎重に観察し、副作用を早期に見つけ出し、最善の薬物治療を担うチーム医療の一員としての薬の知識を身に付ける。										
授 業 計 画											
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考		
第1回	①薬理学総論I		クスリとは？薬理作用の基本形式						長友 9/27(水)		
第2回	②薬理学総論II		薬理的解析、用量反応曲線						新岡 10/4(水)		
第3回	③末梢神経作用薬I		自律神経概説、交感神経に作用する薬						工藤 10/11(水)		
第4回	④末梢神経作用薬II		副交感神経に作用する薬、筋弛緩薬						工藤 10/18(水)		
第5回	⑤中枢神経作用薬I		麻薬性鎮痛薬、催眠薬						古川 10/25(水)		
第6回	⑥中枢神経作用薬II		向精神薬、抗うつ薬、抗精神病薬						古川 11/1(水)		
第7回	⑦心臓I		高血圧・心不全						丹羽 11/8(水)		
第8回	⑧心臓II		狭心症・不整脈・脂質						丹羽 11/15(水)		
第9回	⑨抗炎症薬		NSAIDs、副腎皮質ステロイド						工藤 11/22(水)		
第10回	⑩呼吸器		気管支喘息治療薬、鎮咳薬						長友 11/29(水)		
第11回	⑪消化器		胃潰瘍治療薬						長友 12/6(水)		
第12回	⑫ホルモン		糖尿病治療薬						長友 12/13(水)		
第13回	⑬和漢薬		漢方医薬						工藤 12/20(水)		
第14回	⑭抗悪性腫瘍薬		分子標的薬						工藤 1/17(水)		
第15回	⑮抗感染症薬		抗生物質各論、抗ウイルス薬						新岡 1/24(水)		
評価方法及び評価基準	出席状況および期末試験結果(60点以上)とする。										
課題等	なし										
事前事後学修	なし										
教材教科書参考書	<p>【指定教科書】わかりやすい薬理学 第3版 ニューヴェルヒロカワ、○×問題でマスター 薬理学 第2版 医歯薬出版、</p> <p>【参考書】系統看護学講座・専門基礎分野「疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学吉岡充弘・泉剛・井関健著、2017年1月 日発行 第13版第4刷、医学書院</p>										
留意点	授業の進度は速い。予習・復習をすること。授業の予習復習にとどまらず、自ら勉強する姿勢が求められる。1年次前期に学習した解剖学(形態学)、生理学(機能学)が基礎となる。										

科目名	栄養代謝学		科目ナンバリング	N-FN PR 1-06. H N	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N20008	時間	30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	三 村 純 正				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	無								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 ヒトの身体における栄養素の役割や代謝、各種ヒト疾患との関連について総合的に学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの1、2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素や生体を構成する物質の種類や役割を理解できる。 2. 栄養素や生体内物質の代謝の仕組みを理解できる。 3. 代謝の異常によって起こる様々な疾患・病態の発症機構を理解できる。 4. 医療、実生活において栄養学がどのように活用されているか理解できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	栄養代謝学概論			栄養代謝学の概説、生化学を学ぶための基礎知識						
第2回	代謝の基礎と酵素・補酵素			代謝と酵素、補酵素の役割						
第3回	糖質の構造と機能			糖質の構造と機能						
第4回	糖質代謝 1			糖質代謝の仕組みと機能						
第5回	糖質代謝 2			糖質代謝の仕組みと機能						
第6回	脂質の構造と機能			脂質の構造と機能						
第7回	脂質代謝			脂質代謝の仕組みと機能						
第8回	タンパク質の構造と機能、タンパク質代謝			ポルフィリン代謝、異物代謝の仕組みと機能						
第9回	ポルフィリン代謝と異物代謝			ポルフィリン代謝、異物代謝の仕組みと機能						
第10回	核酸、ヌクレオチドの代謝			核酸、ヌクレオチドの代謝の仕組みと機能						
第11回	ビタミン			ビタミンの種類と機能						
第12回	ミネラル			ミネラルの種類と機能						
第13回	代謝の異常			代謝異常症の発症の仕組み						
第14回	医療と栄養			医療における栄養の役割						
第15回	まとめ			授業の総括						
評価方法及び評価基準	期末試験（80点，80%）と出席状況・授業中の問題への解答（20点，20%）から総合的に評価します。									
課題等	課題等は特に出しません。									
事前事後学修	復習として、前回の講義で学習した章のゼミナールを解いてみてください。									
教材教科書参考書	<p>(1) 系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能[2] 医学書院 ISBN978-4-260-03556-9</p> <p>(2) 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能[3] 医学書院 ISBN978-4-260-03861-4</p>									
留意点	<p>・ (1) と (2) の教科書の内容に沿って講義、試験を行います。</p> <p>・ 毎回、授業中に問題（一問）を出します。（出席確認を兼ねる）</p> <p>連絡先 弘前大学大学院医学研究科分子生体防御学講座 (Tel: 0172-39-5512、E-Mail: jmimura@hirosaki-u.ac.jp)</p>									

科目名	看護栄養学		科目ナンバリング	N-FN PR 1-19.S N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N20024	時間	15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	佐藤厚子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	1. 栄養と健康のつながりについて理解する。 2. 日本における健康課題と健康政策を学び、QOLの向上を目指した食事について考える。 3. 健康の維持・増進に関する知識を踏まえ、健康教育に応用できる基礎的能力を養う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3、4、5、7に関連し、カリキュラムポリシーの1、2に関連している。									
到達 目標	1. 食べることは生きることの原点であることを理解する。 2. 栄養と健康寿命の関連を大規模研究から学ぶ。 3. 健康に関する考え方や価値観は時代の環境や個人の考え方などによって左右され、その結果生じる栄養状態の変化が健康に影響を与えることを幅広い年代構成で洞察する。 4. 現在の日本における生活習慣病をはじめ、時代とともに変遷してきた食生活の変化と疾病構造の変化などを通して「食べること」の意味を考える。 5. 健康を維持するための行動力や自己判断が必要であることを学び、食生活の自己管理や食事指導ができる基礎知識を修得する。									
	授 業 計 画									
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	健康と栄養 プレスローの7つの健康習慣			健康と栄養との関連を疫学から学ぶ				ディベート		
第2回	日本における健康づくり政策			人口統計の特徴と問題点から日本における健康づくり政策を知る						
第3回	わが国の健康・栄養問題の現状と課題			日本人の食事摂取基準の概要と課題を考える						
第4回	思春期から青年期における健康と栄養問題（肥満・やせ・抑うつ）			学校保健統計調査から見えてきた課題と健康に及ぼす影響を考える						
第5回	生活習慣病と栄養問題（糖尿病）			疾病構造の変化と生活習慣の関連を知り、予防について考える						
第6回	高齢者と栄養問題（フレイル）			人生100年時代のQOLと栄養バランスの重要性を考える						
第7回	取り込まれた食物のゆくえと腸脳循環			食物が消化・吸収されるまでの過程と腸脳循環との関連について知る						
第8回	望ましい食物摂取と食教育を考える			「食管理あるいは食教育に関するレポート」を作成する						
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験（60%）、レポート（35%）、参加状況（5%）により評価する。									
課題等	レポートはチェックして返却します。									
事前 事後 学修	振返りが大事です。重要ポイントはプリントの振返りポイントで確認していきましょう。									
教材 教科書 参考書	【教科書】系統看護学講座専門分野栄養学 医学書院 ISBN 978-4-260-03861-4 【参考書】看護栄養学 医歯薬出版株式会社									
留意点	健康な体を維持することは人生の宝ものです。健康・食事・運動に興味を持ちましょう。									

科目名	微生物と感染症		科目ナンバリング	N-FN PR 1-07. H N	単位数 時 間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N20009		30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	中 根 明 夫				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	無								
授業の概要	<p>(授業の主旨) 感染症は、細菌、ウイルス、真菌など肉眼では見ることができない微生物によって起きる疾患である。他の疾患と大きく異なることは、感染が拡大し、時には世界的な流行を起こすことである。この授業では、感染症を起こす微生物とはどのようなものであるかを知った上で、感染メカニズム、感染症の予防・治療について解説する。さらに、感染症に対する私たちの防御、すなわち免疫応答メカニズムについても解説する。 (ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項) ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの4に関連している。</p>									
到達目標	病原微生物の性質、感染メカニズム、感染症の発症メカニズム、感染症の予防・治療、感染に対する防御システムを理解する。微生物と感染症の基礎を理解することにより、病院や社会を感染症から守るモチベーションを高める。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容 (授業時間外の学修を含む)						備 考	
第1回	感染症の重要性		新型コロナウイルス感染症を例に感染症の重要性を理解する						9/29(金)	
第2回	微生物の種類と現代感染症の問題		微生物の種類と最近の感染症のトレンドを理解する						10/6(金)	
第3回	微生物を知る (1)		真菌・原虫・プリオンの特徴・性質を理解する						10/13(金)	
第4回	微生物を知る (2)		細菌の特徴・培養法など、細菌の性質を理解する						10/20(金)	
第5回	微生物を知る (3)		細菌学的診断と化学療法について理解する						10/27(金)	
第6回	微生物を知る (4)		ウイルスの特徴・培養・診断・治療について理解する						11/10(金)	
第7回	感染メカニズム (1)		常在微生物と感染源(ヒト・動物・環境)を理解する						11/17(金)	
第8回	感染メカニズム (2)		感染経路(経口・飛沫・空気・接触・昆虫媒介)を理解する						11/24(金)	
第9回	感染予防		医療関連感染を中心とした感染予防法について理解する						12/1(金)	
第10回	発病メカニズム		細菌・ウイルス感染症の顕性感染と不顕性感染を理解する						12/8(金)	
第11回	生体防御		感染防御システム(自然免疫・獲得免疫)を理解する						12/15(金)	
第12回	細菌感染症 (1)		グラム陽性球菌・桿菌、グラム陰性球菌による感染症(MRSA、結核など)を理解する						12/22(金)	
第13回	細菌感染症 (2)		グラム陰性桿菌、らせん菌(大腸菌・ピロリ菌・梅毒など)による感染症を理解する						1/12(金)	
第14回	ウイルス感染症 (1)		ウイルス感染症(水痘・HPV・インフルエンザ・コロナウイルス感染症)を理解する						1/19(金)	
第15回	ウイルス感染症 (2)		ウイルス感染症(麻疹・AIDS・ウイルス性肝炎など)を理解する						1/26(金)	
評価方法及び評価基準	定期試験を100点として評価するが、出席状況や受講態度が芳しくない場合は、20点の範囲で減点する場合がある。									
課題等	特になし									
事前事後学修	授業に使用する資料は事前に配布するので授業前に目を通しておくこと。また授業後は振り返り学修をすること。週3時間程度の予復習が望ましい。									
教材教科書参考書	新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進2 「微生物学・感染制御学」 ISBN : 978-4-8392-3269-6									
留意点	この授業の大きな目的は、将来看護師として働く皆さんが感染症から自分自身を守ることですので、授業に出席し、授業内に理解することを心がけてください。質問は大歓迎です。 学内でオフィスアワーは設けませんが、質問等連絡事項は学務課を経由してコンタクトしてください。									

科目名	疾 病 論 I		科目ナンバリング	N-FN PR 1-08. H N	単位数 時 間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N20010		30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	中 村 典 雄 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	無								
授業の 概要	〔授業の主旨〕 主に内科系疾患全般の原因、病態生理、診断、治療について概説する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕									
到達 目標	内科系疾患全般について理解することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	疾病の原因と内科学概論		人体、疾病、その原因・病態について						4/13(木)5限	
第2回	呼吸器疾患の検査法		呼吸器疾患の検査法とその解釈について						4/20(木)5限	
第3回	呼吸器疾患の病態と治療		各種呼吸器疾患の病態と治療について						4/20(木)6限 (18:00頃迄)	
第4回	腎疾患の検査法、病態と治療		腎疾患の検査法とその解釈、各種腎疾患について						5/11(木)5限	
第5回	循環器疾患の検査法		循環器疾患の検査法とその解釈について						5/18(木)5限	
第6回	循環器疾患の病態と治療		各種循環器疾患の病態と治療について						5/18(木)6限 (18:00頃迄)	
第7回	膠原病の検査法、病態と治療		膠原病の検査法とその解釈、各種膠原病について						6/1(木)5限	
第8回	血液疾患の検査法、病態と治療		血液疾患の検査法とその解釈、各種血液疾患について						6/8(木)5限	
第9回	感染症の検査法		感染症の検査法とその解釈について						6/15(木)5限	
第10回	感染症の病態と治療		各種感染症の病態と治療について						6/15(木)6限 (18:00頃迄)	
第11回	消化器疾患の検査法		消化器疾患の検査法とその解釈について						6/29(木)5限	
第12回	消化器疾患の病態と治療		各種消化器疾患の病態と治療について						6/29(木)6限 (18:00頃迄)	
第13回	代謝性疾患の検査法、病態と治療		代謝性疾患の検査法とその解釈、各種代謝性疾患について						7/6(木)5限	
第14回	内分泌疾患の検査法、病態と治療		内分泌疾患の検査法とその解釈、各種内分泌疾患について						7/13(木)5限	
第15回	神経疾患の検査法、病態と治療		神経疾患の検査法とその解釈、各種神経疾患について						7/20(木)5限	
評価 方法 及び 評価 基準	筆記試験によって評価します。									
課題等	特になし									
事前事 後学修	特になし									
教材 教科書 参考書	資料を用意します。講義はスライドによるプレゼンテーションで行います。									
留意点	学ぶ範囲が広いので講義資料を用いてしっかり復習しましょう。 また、積極的に質問し疑問点を解決しましょう。									

科目名	疾病論Ⅱ (泌尿器科学)		科目ナンバリング	N-FN PR 1-09.H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N20011	時間	30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	山本 勇人 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	オムニバス
	アクティブラーニング	無								
授業の概要等	〔授業の主旨〕 泌尿器科で扱う癌の中で、前立腺癌と膀胱癌に焦点を当て、病態や治療法などについて学習する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。									
到達目標	①泌尿器科に特有の癌に対する知識を深める ②泌尿器科癌の検査・診断・治療に関して理解を深める									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	前立腺癌			前立腺癌の病態・治療等の解説					4/10(月)5限	
第2回	膀胱癌			膀胱癌の病態・治療等の解説					4/17(月)5限	
評価方法及び評価基準	試験(100%)により評価を行う。									
課題等	なし。									
事前事後学修	プリントを用いた事後学習をお願いします(最低1時間)。									
教材教科書参考書	教科書は使用しない。 プリントを配布します。									
留意点	講義の妨げになる行為、学則や社会常識に反するような言動、ルール違反は厳禁です。									

科目名	疾病論Ⅱ (耳鼻咽喉科学)		科目ナンバリング	N-FN PR 1-09.H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N20011	時間	30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	後藤 真一 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	オムニバス
	アクティブラーニング	無								
授業の概要	1. 耳鼻咽喉科学									
到達目標	①耳鼻咽喉科疾患に関する検査・診断・治療について基本的な理解を深める。 ②耳鼻咽喉科領域の癌、いわゆる頭頸部癌に対する知識を深める。 ③人工内耳の知識に触れる									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 (授業時間外の学修を含む)					備 考	
第1回	耳鼻咽喉科学 1			外耳・中耳・内耳・鼻腔・副鼻腔領域					5/15(月)5限	
第2回	耳鼻咽喉科学 2			口腔・咽頭・喉頭・気管・食道領域					5/22(月)5限	
評価方法及び評価基準	試験(100%)により評価を行う									
課題等	なし									
事前事後学修	プリントを用いた事後学習をお願いします。									
教材教科書参考書	教科書は使用しない。 プリントを配布します。									
留意点										

科目名	疾病論Ⅱ (精神神経科学)		科目ナンバリング	N-FN PR 1-09. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N20011	時間	30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	吉村 哲明 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	オムニバス
	アクティブラーニング	無								
授業の概要等	[授業の主旨] 精神疾患に関する基礎的知識を習得することを目標に、精神疾患の成因や症状を理解するとともに、代表的精神疾患である統合失調症、気分障害、神経症性障害などの概要を学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2～6に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達目標	1. 精神障害の成因および精神症状について学ぶ。 2. 統合失調症、気分障害、神経症性障害、認知症など代表的精神疾患の疾病概念、病型、症状、治療などの概要を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容						備考
第1回	精神障害の成因と精神症状			精神神経科学の総論						6/5(月)5限
第2回	統合失調症			統合失調症の疾病概念、病型、症状、治療						6/12(月)5限
第3回	気分障害			気分障害の疾病概念、病型、症状、治療						6/19(月)5限
第4回	神経症性障害			神経症性障害の疾病概念、病型、症状、治療						6/26(月)5限
第5回	その他の代表的精神疾患			認知症などその他の代表的精神疾患の疾病概念、病型、症状、治療						7/3(月)5限
評価方法及び評価基準	学期末試験の結果をもとに評価する(100%)。 試験問題は、講義内容全般の理解度・修得度を確認するための設問となっている。									
課題等	特になし。									
事前事後学修	事前学習は特に要さない。講義で理解を深め、配布資料を中心に十分な時間をかけて復習すること。									
教材教科書参考書	資料を配布する。教科書は使用しない。									
留意点	特記事項なし。									

科目名	疾病論Ⅱ (皮膚科学)		科目ナンバリング	N-FN PR 1-09. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N20011	時間	30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	高橋 実か (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	オムニバス
	アクティブラーニング	無								
授業の概要	[授業の主旨] 皮膚の正常構造と生理的機能、皮膚疾患を診断する際に、必須な発疹学について学習する。また代表的な検査や各論として代表的な皮膚疾患について網羅的に学習する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。									
到達目標	1. 皮膚の正常構造・生理機能について理解できる。 2. 発疹学を理解できる。 3. 皮膚科の代表的な疾患を理解できる。									
回	主 題			授 業 内 容 (授業時間外の学修を含む)						備考
第1回	皮膚科学 1			皮膚科総論・皮膚科各論 (前半)						5/12(金)5限
第2回	皮膚科学 2			皮膚科各論 (後半)						5/19(金)5限
評価方法及び評価基準	2回とも出席した出席者に対し、 試験(90%)にて授業内容の理解度を問う。 授業態度(10%)：授業に対しての予習がなされているか(発言・意見など)									
課題等	なし									
事前事後学修	なし									
教材教科書参考書	配布されているテキスト									
留意点	事前にテキストを通読しておくこと。									

科目名	疾病論Ⅱ (麻酔科学)		科目ナンバリング	N-FN PR 1-09. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N20011	時間	30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	工藤隆司 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	オムニバス	
	アクティブラーニング	無								
授業の概要	[授業の主旨] 進歩し続ける医療において、麻酔が必要とされる理由、麻酔が担う役割について学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。									
到達目標	手術を安全に管理するために麻酔科医がどのようなことに気を付けているのかを理解し、周術期管理の全体像をイメージできるようにする。									
回	主 題			授業内容 (授業時間外の学修を含む)				備考		
第1回	周術期の全身管理・麻酔の基礎1			麻酔の種類、全身麻酔3大要素、全身麻酔における注意点				5/2(火)4限		
第2回	周術期の全身管理・麻酔の基礎2			全身麻酔の流れ、バイタルサイン、輸液、輸血				5/9(火)4限		
評価方法及び評価基準	試験									
課題等	なし									
事前事後学修	なし									
教材教科書参考書	授業資料を配布 【参考書】周術期管理チームテキスト第4版 公益社団法人日本麻酔科学会 会員 (著), 日本手術看護学会 会員 (著) ISBN-10 : 4990526295 ISBN-13 : 978-4990526290									
留意点										

科目名	疾病論Ⅱ (眼科)		科目ナンバリング	N-FN PR 1-09. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N20011	時間	30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	山内宏大 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	オムニバス	
	アクティブラーニング	無								
授業の概要	[授業の主旨] 看護に必要な眼科分野の知識を得る。教科書の内容に従って進める。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。									
到達目標	看護における眼科の独自性、他科との関連を理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容 (授業時間外の学修を含む)				備考		
第1回	解剖、眼科検査			基礎知識(解剖、検査)の講義、課題の回収。				5/26(金)5限		
第2回	疾患、課題解説			添削した課題の返却と解説、疾患について講義。				6/2(金)5限		
評価方法及び評価基準	筆記試験、および課題の評価。									
課題等	第一回目の講義の2週間前に内容を公開。主に解剖図を記載しての部位把握を目的とした内容提出は初回講義時、添削した課題を第二回目の講義時に返却する。									
事前事後学修										
教材教科書参考書	医学書院 系統看護学講座 専門17「眼」成人看護学「13」 ISBN978-4-260-03859-1									
留意点	欠席しない事、講義進行の妨害をしない事									

科目名	疾病論Ⅲ (整形外科学)		科目ナンバリング	N-FN PR 1-10. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N20012	時間	30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	市川 奈菜 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	オムニバス
	アクティブラーニング	無								
授業の概要	[授業の主旨] 整形外科領域における疾病や検査・治療に伴う日常生活の影響を理解するために、主要な中枢神経、感覚機能、運動機能の障害や治療について学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2~6に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達目標	1. 整形外科領域における、一般的な疾病に関する知識を得る 2. 疾患に伴う合併症を理解し、注意点などを理解する									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	骨折総論、脱臼、捻挫		骨折や脱臼、捻挫といった一般的な外傷の総論						9/26(火)2限	
第2回	神経の損傷・障害、関節疾患		脊髄損傷、四肢関節の疾患の総論						10/3(火)2限	
第3回	関節リウマチ、骨軟部腫瘍、筋・腱疾患		関節リウマチ、骨軟部腫瘍、筋や腱の疾患の総論						10/10(火)2限	
第4回	末梢神経障害、脊髄疾患、下肢の疾患		末梢神経、脊椎疾患、下肢の疾患についての総論						10/17(火)2限	
評価方法及び評価基準	定期試験(80%)：授業内容の理解度を問う 授業態度(20%)：授業態度など									
課題等	なし									
事前事後学修	なし									
教材教科書参考書	教科書：成人看護学 [10] 運動疾患患者の看護 医学書院									
留意点	整形外科的な知識は、高齢化社会が進む将来において必須の知識となる。 他の科にて看護を行う場合にも重要な知識となり得るため、教科書等を用いての自己学習をすること。									

科目名	疾病論Ⅲ (呼吸器・循環器外科学)		科目ナンバリング	N-FN PR 1-10. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N20012	時間	30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	皆川 正仁 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	オムニバス
	アクティブラーニング	無								
授業の概要	[授業の主旨] 循環器・呼吸器系の主な疾患の概要を理解し、主としてそれらの外科的治療について学習する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2~6に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達目標	1. 心疾患の病態と症状について理解する。 2. 心疾患の検査法、および治療法について理解する。 3. 呼吸器疾患の病態および治療法について理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	虚血性心疾患		狭心症、急性心筋梗塞の病態、症状、検査および治療法						10/24(火)2限	
第2回	心臓弁膜症		大動脈弁、僧帽弁疾患の病態、症状、検査および治療法						10/31(火)2限	
第3回	心不全、血管疾患		心不全の病態と各種治療法 動脈・静脈・リンパ系疾患について						11/7(火)2限	
第4回	胸壁・肺・縦隔の疾患		慢性・急性呼吸器疾患および腫瘍性肺疾患の病態、症状、検査、治療法						11/21(火)2限	
評価方法及び評価基準	期末試験で評価する。									
課題等	なし									
事前事後学修	なし									
教材教科書参考書	医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論									
留意点	疑問点は、その都度質問し、理解を深めてください。									

科目名	疾病論Ⅲ (外科学)		科目ナンバリング	N-FN PR 1-10. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N20012		30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	平尾 良範、兼田 杏理、松本 拓真、境 剛志 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	オムニバス	
	アクティブラーニング	無								
授業の概要	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。									
到達目標	1. 消化器、乳腺、および甲状腺の構造・機能と疾患について理解する。 2. 各疾患に対する外科的治療(手術療法)について理解する。 3. 手術療法における術前、術後管理、周手術期の看護について理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容(授業時間外の学修を含む)				備考		
第1回	甲状腺・副甲状腺の疾患			甲状腺・副甲状腺の機能、疾患、および治療法				9/26(火)5限 平尾		
第2回	乳腺の疾患(乳癌)			乳癌の背景、検診とのかかわり、乳癌の分類および治療法				10/3(火)5限 平尾		
第3回	食道・胃・十二指腸の外科疾患(1)			食道・胃・十二指腸の構造と機能、疾患および治療法(1)				11/28(火)2限 兼田		
第4回	食道・胃・十二指腸の外科疾患(2)			食道・胃・十二指腸の構造と機能、疾患および治療法(2)				12/5(火)2限 兼田		
第5回	小腸・大腸の外科疾患(1)			小腸・大腸の構造と機能、疾患および治療法(1)				12/12(火)2限 松本		
第6回	小腸・大腸の外科疾患(2)			小腸・大腸の構造と機能、疾患および治療法(2)				12/19(火)2限 松本		
第7回	肝臓・胆嚢・膵臓の外科疾患			肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能、疾患および治療法				1/16(火)2限 境		
評価方法及び評価基準	定期試験を主とする。必要に応じてレポート等を課す。									
課題等	なし									
事前事後学修	なし									
教材教科書参考書	医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 乳癌では「患者さんのための乳がん診療ガイドライン(2023年版)」(日本乳癌学会編集、金原出版株式会社)も推奨します。									
留意点	内容が多いので予習をして臨むこと。疑問点は、その都度質問し、理解を深めてください。									

科目名	疾病論Ⅳ (小児科学)		科目ナンバリング	N-FN PR 1-11.H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N20013		30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	杉本 和彦、佐藤 工、佐藤 啓 敦賀 和志、岡本 剛、藤岡彩夏 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	オムニバス	
	アクティブラーニング	無								
授業の 概要	<p>[授業の趣旨] 小児科領域で見られる疾患、発育や発達の問題について講義します。 疾患を理解し、正常な発育、発達に近づけていく看護力をつけ、小児が健康な状態を継続できるよう 患児および家族を看護できる力をつけてほしいです。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2~6に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>各分野ごとに小児期に見られる疾患の病態や治療方法等について学び、小児科患者の看護に必要な知識を 身につけることを目的とする。 小児の正常な発育・発達を知り、小児に多い疾患や特有な疾患についての知識を習得する。 そのうえで、小児看護の楽しさ、重要性を考える。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容 (授業時間外の学修を含む)					備考		
第1回	小児科でみる疾患について		(1) 免疫・アレルギー疾患、膠原病 (2) 感染症 (3) 呼吸器疾患					担当：杉本 9/26(火)4限		
第2回	小児科でみる疾患について		(1) 循環器疾患 (2) 消化器疾患					担当：佐藤工 10/27(金)2限		
第3回	小児科でみる疾患について		(1) 血液・造血器疾患 (2) 悪性新生物					担当：岡本 10/17(火)4限		
第4回	小児の特性について		小児の発育・発達、先天異常、新生児					担当：佐藤啓 10/3(火)4限		
第5回	小児科でみる疾患について		代謝・内分泌疾患、腎臓・泌尿器系疾患、神経系疾患					担当：敦賀 10/10(火)4限		
第6回	他の科との関連等について		整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻科、精神疾患、外傷、虐待					担当：藤岡 10/24(火)4限		
評価 方法 及び 評価 基準	学年末の試験(90%)と出席状況(10%)により評価します。									
課題等	なし									
事前事後 学修	なし									
教材 教科書 参考書	小児看護学(2) 小児臨床看護学各論 医学書院									
留意点										

科目名	疾病論Ⅳ (産・婦人科学)		科目ナンバリング	N-FN PR 1-11. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N20013		30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	樋口 毅 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	オムニバス	
	アクティブラーニング	無								
授業の 概要	<p>[授業の主旨] 女性の発達過程の各時期における生理と病態を学び、その各時期に必要な看護の知識を修得する。 妊娠・分娩・産褥期の母体の変化と、胎児の発育、新生児の生理と病態を学び、看護者として必要な援助ができるように学習する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2～6に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の発達過程の各時期における生理と病態について理解できる。 2. 妊娠・分娩・産褥期の母体の変化について生理と病態を理解できる。 3. 胎児の発育、新生児の生理と病態について理解できる。 4. 女性の発達過程の各期に必要な援助について理解できる。 5. 妊娠・分娩・産褥期、新生児に必要な援助を理解できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)				備 考			
第1回	骨盤内性器の解剖、性の分化、生殖内分泌		骨盤内性器の解剖、性分化、生殖内分泌、性周期などの生理と異常				9/27(水)2限			
第2回	婦人科疾患の症状、診察法、検査法、治療法		婦人科疾患の症状、診断検査法と治療法など				10/4(水)2限			
第3回	女性生殖器疾患 (1)		先天異常・奇形、炎症、位置異常、月経異常、子宮内膜症				10/11(水)2限			
第4回	女性生殖器疾患 (2)		外陰・腔・子宮の悪性腫瘍				10/18(水)2限			
第5回	女性生殖器疾患 (3)		子宮の悪性腫瘍、卵巣腫瘍、絨毛性疾患				10/25(水)2限			
第6回	更年期障害、不妊		更年期障害、不妊、不育				11/1(水)2限			
第7回	妊娠の成立、受精着床、胎児の発育、妊娠の経過と病態		妊娠の成立機序、受精、着床、胎児の発育妊娠の経過、妊娠中に発症する病態				11/8(水)2限			
第8回	妊婦健診、妊娠時の検査、周産期の感染症		妊婦健診、妊娠時の諸検査、周産期の感染症				11/15(水)2限			
第9回	分娩の生理と病態、分娩管理		分娩の生理および分娩の病態、分娩の管理と看護				11/22(水)2限			
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験(100%)による。									
課題等	なし									
事前事後 学修	なし									
教材 教科書 参考書	教科書：医学書院系統看護学講座、専門分野Ⅱ、女性生殖器、成人看護学① 医学書院系統看護学講座、専門分野Ⅱ、母性看護学各論、母性看護学②									
留意点	欠席しないこと、授業に関連することは予習すること、疑問点は質問すること。									

科目名	公衆衛生学		科目ナンバリング	N-FN HS 1-12. H N	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	看護基礎科目	必修	科目コード	N20014	時間	30時間				
区分	アクティブラーニング	無	担当者名	三 上 聖 治			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>環境問題をはじめとし、新しい感染症の出現、食品をめぐる問題、職業と疾病との関係、ライフサイクルによる健康状況の多様化など社会の進展に伴って緊急かつ複雑な対応を求められる公衆衛生的事象にいかに取り組むかを考える。環境保健として、物理的、化学的、生物的、社会的環境と健康問題について、学習する。対人保健として、保健、医療、福祉が一体となってこそ生活環境改善が実現することを学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの9、10に関連している。</p> <p>カリキュラムポリシーの5に関連している。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生学で扱う用語と比率について理解することができる。 ・疾病分類について理解することができる。 ・環境と人間の健康についての関わりを理解できる。 ・人々の生活の場と健康問題の関係を理解することができる。 ・医療資源、マンパワーについて理解できる。 ・公共政策的な健康に対するアプローチの方法を理解できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	公衆衛生学序論		公衆衛生の扱う対象、領域について学習する。							
第2回	社会の変遷と健康問題の変化		健康問題の変遷と社会のかかわりについて学習する。							
第3回	感染症の予防		感染症の種類と変遷について、個人対策、社会対策について学習							
第4回	生活習慣病の予防		生活習慣病の原因と対策について学習する。							
第5回	生態系と環境		地球環境と生物、ヒトの生態系との関わりについて学習する。							
第6回	物理的環境		温熱環境、光環境、物質との関わりについて学習する。							
第7回	化学的環境		空気、水、化学物質とヒトとの関わりについて学習する。							
第8回	生物学的環境		食物、生物とヒトとの関わりについて学習する。							
第9回	地域保健活動と保健行政		地域保健とは何か、誰がどのように関わっているかを学習する。							
第10回	母子保健活動と保健行政		母子保健について公衆衛生的なアプローチを解説する。							
第11回	学校保健組織と活動		学校保健の特殊性と問題点について公衆衛生の役割を学習する。							
第12回	産業保健		産業の実際と健康問題について学習する。							
第13回	老人保健・福祉		老人保健・福祉の現状と将来予測について学習する。							
第14回	精神保健		精神保健関連の実態と対策について学習する。							
第15回	国際保健医療		公衆衛生の立場から国際保健や医療に何ができるかについて学習する。							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業の対応、レポート、試験の加算方式</p> <p>授業の対応（10%）、レポート（40%）、試験（50%）</p>									
課題等	レポートの評価は試験前に掲示し、試験実施前の再提出も認める。個々のレポートについてTeamsを用いて添削する。									
事前事 後学修	事前学習として合計22.5時間以上を目安とする。									
教材 教科書 参考書	教科書：シンプル衛生公衆衛生学2023、南江堂 ISBN978-4-524-23156-0 C3047 必ず事前に用意してください。									
留意点	遅刻は出席にカウントされません。新聞やインターネット等で日常的に、健康問題に関心を持ちましょう。									

科目名	疫 学		科目ナンバリング	N-FN HS 1-13. H N	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N20015	時 間	30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	三 上 聖 治				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	無								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>疫学および統計処理の基礎を学び、人間集団の中で起こりうる様々な健康関連の問題を理解し、諸問題の解決のために必要な対策を樹立できる基礎的能力を習得できるようにします。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの9、10に関連している。</p> <p>カリキュラムポリシーの5に関連している。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疫学の定義と集団に関する考え方を理解する。 ・ 論理的な考え方を身につける。 ・ リスクについての理解を深める。 ・ 疫学調査の設計と分析の理解ができる。 ・ 調査、研究の倫理についての理解を深める。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	疫学事始め			疫学の特徴と疫学的な考え方について学習する。						
第2回	5つのW-bridge (What, Whoについて)			疫学の対象について学習する。						
第3回	5つのW-bridge (Where, When, Whyについて) II			疫学的な事象についての論理的な考察を学習する。						
第4回	疫学研究の種類			疫学研究の種類、方法、利点、欠点について学習する。						
第5回	疫学指標			曝露効果の指標について学習する。						
第6回	スクリーニング			2次予防の効果判定について学習する。						
第7回	記述疫学			記述疫学の実際と利点、限界について学習する。						
第8回	分析疫学と推測統計学			分析疫学の手法と統計学の関連について学習する。						
第9回	横断研究と生態学的研究			観察研究の横断研究と生態学的研究の手法、利点、欠点について学習する。						
第10回	症例対照研究			症例対照研究の手法、利点、欠点について学習する。						
第11回	コホート研究			コホート研究の手法、利点、欠点について学習する。						
第12回	交絡因子とその調整方法			バイアスのn種類とその除去方法について学習する。						
第13回	実験疫学と介入研究			介入研究の種類と方法、その実践例について学習する。						
第14回	疫学の応用			EBMやEBNIについて紹介し、地域保健や瀬策実現の手法について学習する。						
第15回	疫学研究と倫理			研究倫理の必要性和倫理審査の実際について学習する。						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業の対応、レポート、試験による加算方式</p> <p>授業の対応 (10%)、レポート (40%)、試験 (50%)</p>									
課題等	レポートの評価は試験前に掲示し、試験実施前の再提出も認める。個々のレポートについてTEAMSを用いて添削する。									
事前事 後学修	事前学習として合計22.5時間以上を目安とする。									
教材 教科書 参考書	教科書：看護疫学入門、医歯薬出版 ISBN978-4-263-23698-7 C3047									
留意点	遅刻は認めない。									

科目名	保健統計学		科目ナンバリング	N-FN HS 1-15. H N	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期	
	区分	看護基礎科目	科目コード	N20016	時間	30時間	担当	三 上 聖 治		授業形態	講義
	看護基礎科目	必修	担当者名	三 上 聖 治				授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>公衆衛生看護活動の重要な学問として、人間集団の中で起こりうる集団内の健康問題の発見と、調査の概要、調査の設計と分析などについて学ぶ。インターネットによる検索方法、フィールド・リサーチに必要な統計処理の基礎的能力を修得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの9、10に関連している。 カリキュラムポリシーの5に関連している。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団的なもの見方ができる。 ・ 調査について理解できる。 ・ 統計表を理解することができる。 ・ 統計処理を計算機で行うことができる。 ・ 将来予測ができる。 										
授 業 計 画											
回	主 題	授 業 内 容							備 考		
第1回	保健統計学とは	保健に関する統計は誰が収集し誰が活用するかについて学習する。									
第2回	統計指標の見方	統計指標の対象、地域、時代について学習する。									
第3回	人口静態統計	人口静態統計の用語についての理解を深める。									
第4回	人口動態統計	人口動態統計について、出生、死亡、自然増、社会増について理解する。									
第5回	調査	法律に基づいて実施されている調査の種類、方法、対象者について学習する。									
第6回	統計分類	死因分類、疾病分類について学習する。									
第7回	保健指標（1）	死亡率について学習する。									
第8回	保健指標（2）	割合と比について学習する。									
第9回	傷病量の表現	有病率と罹患率について学習する。									
第10回	指標の標準化	標準化の必要性和直接法、間接法について学習する。									
第11回	生命表	現状生命表についての考え方、方法について学習する。									
第12回	年次推移の観察	疾病の年次推移について学習し、原因を探索する。									
第13回	季節変動の観察	感染症の季節変動について学習する。									
第14回	将来予測	人口問題、環境問題について将来予測を実施する。									
第15回	保健統計から見えてくること	将来を見据えた早急な対策について学習する。									
評価方法及び評価基準	<p>授業の対応、レポート、試験の加算方式</p> <p>授業の対応（20%）、レポート（30%）、試験（50%）、個々のレポートについてTEAMSを用いて添削する。</p>										
課題等	レポートの評価は試験前に掲示し、試験実施前の再提出も認める。										
事前事後学習	事前学習として合計22.5時間以上を目安とする。										
教材教科書参考書	教科書：厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向 2022/2023 Vol. 69 No. 9 厚生労働統計協会 ISSN 0452-6104										
留意点	遅刻は出席にカウントしない。必要に応じてパソコンを使うのでスプレッドシートの使い方を学習しておくこと。										

科目名	社会福祉論		科目ナンバリング	N-PH HS 1-01.P P	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	看護基礎科目	選択必修	科目コード	N20017		30時間				
区分	アクティブラーニング	無	担当者名	丸山 龍太			授業 形態	講義	単独	
社会福祉 概論A	〔授業の主旨〕 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解すると共に、社会福祉の歴史的展開の過程と理論を踏まえ欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。また、社会福祉の問題と社会構造の関係の視点から現代社会問題について理解する。さらに、福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解すると共に、人々の生活ニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解する。									
到達 目標	社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解すると共に、社会福祉の歴史的展開の過程と理論を踏まえ欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解することができる。また、社会福祉の問題と社会構造の関係の視点から現代社会問題について理解することができる。さらに、福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解すると共に、人々の生活ニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	社会福祉の原理(1)		社会福祉の歴史、思想・哲学について学ぶ。							
第2回	社会福祉の原理(2)		社会福祉の理論、社会福祉の原理と実践、社会福祉学の構造と特徴について学ぶ。							
第3回	社会福祉の歴史(1)		政策史、実践史、発達史等の観点から社会福祉の歴史について学ぶ。また、日本と欧米の比較史の観点についても学ぶ。							
第4回	社会福祉の歴史(2)		日本の社会福祉の歴史的展開を学ぶ。慈善事業・博愛事業・社会事業・社会福祉事業・社会福祉について。							
第5回	社会福祉の歴史(3)		欧米の社会福祉の歴史的展開を学ぶ。救貧法・慈善事業・博愛事業・社会事業・社会保険・福祉国家・福祉社会について。						社会福祉の原理・歴史についての小テスト	
第6回	社会福祉の思想と哲学		社会福祉の思想と哲学を学ぶ。社会福祉の思想と哲学・人間の尊厳・社会主義・平和主義について。						レポート課題提示	
第7回	社会福祉の理論(1)		戦後社会福祉の展開と社会福祉理論、政策論と運動論と経営論、欧米の社会福祉の理論について学ぶ。							
第8回	社会福祉の理論(2)		社会福祉の論点について、とくに公私関係・効率性と公平性・普遍主義と選別主義・自立と依存の観点から学ぶ。							
第9回	社会福祉の理論(3)		社会福祉の論点について、とくに自己選択・自己決定とパターナリズム、参加とエンパワーメント、ジェンダー、社会的承認の観点から学ぶ。							
第10回	社会問題と社会構造(1)		貧困・孤立・失業・要援護性・偏見と差別・社会的排除等に代表される社会問題と社会福祉の関りを学ぶ。							
第11回	社会問題と社会構造(2)		少子高齢化・格差社会・グローバル化・価値観の変化等に代表される社会問題の構造的背景について学ぶ。						レポート課題提出	
第12回	社会福祉政策の基本的な視点		社会問題と福祉政策、福祉政策の理念、福祉政策と社会保障、福祉レジームと福祉政策について学ぶ。						社会福祉理論・政策に関する小テスト	
第13回	社会福祉政策におけるニーズとは		ニーズの種類と内容、ニーズの種類と資源、ニーズの把握方法について学び、社会福祉の対象とニーズについても考える。							
第14回	福祉政策におけるニーズと資源の関係		社会資源の種類と内容、把握方法、開発方法について学び、福祉政策におけるニーズと資源の関係についても考える。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
評価 方法 及び 評価 基準	出席が2/3以上に満たない場合は、評価の対象としない。講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、途中小テストを実施する。また、講義中盤でレポート課題を課す。これらの項目が講義への参加態度の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。レポート課題は、TEAMS上で提示し、TEAMSにより提出する。									
事前事後 学習	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は福田幸夫・長岩嘉文編(2021)『社会福祉の原理と政策』弘文堂(ISBN 978-4-335-61209-1) 参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	地域福祉論		科目ナンバリング	N-PH HS 1-02. P P	単位数 時 間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N20018		30時間				
区分	看護基礎科目	選択必修	担当者名	齋 藤 拓				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	無								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 最も身近な生活環境である「地域」に焦点を置き、地域福祉とは何か、その制度や方法、役割等、地域福祉の基本的な内容を理解するとともに、今日の「地域」の現状や潜在する課題等について考える。 また、関連職種との連携および地域包括ケアシステムについても学習する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4に関連し、カリキュラムポリシー3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 地域を単位とした福祉制度や考え方について理解する。 2. 地域包括ケアシステムにおける自立生活支援の方法と多職種連携のあり方について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）							備考
第1回	オリエンテーション		講義概要							
第2回	地域福祉の基本的な考え方①		社会福祉の目標と自立生活について学ぶ							
第3回	行政組織と民間組織の役割と実際		福祉を担うさまざまな組織、地域福祉の指針について理解する							
第4回	『社会福祉協議会』の役割と実際		新・社会福祉協議会基本要項にみる社協、社協の具体的な活動、社協をめぐる課題を理解する							
第5回	社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の概要		社会福祉援助技術の種類と体系、直接援助技術と間接援助技術、バーステックの7原則を理解する							
第6回	地域福祉活動（コミュニティソーシャルワーク）と専門職の役割		コミュニティソーシャルワークの概念、コミュニティソーシャルワークの特徴、チームアプローチ体制の構築について学ぶ							
第7回	災害救援からみる地域活動		災害ボランティアセンターの活動及び地域における災害支援について理解する							
第8回	給与明細からみる社会保障制度の概要		地域社会を支える社会保障、民間保険・社会保険・社会扶助の違い、医療保険・年金保険・労働保険の概要を理解する							
第9回	生活保護について		セーフティネットの根底を支える生活保護制度について理解する。							
第10回	高齢者を地域で支える介護保険制度		介護保険制度のしくみ、保険料と利用者負担、これからの介護保険制度について理解する							
第11回	地域包括ケアシステムの構築と実際		地域包括ケアシステムについて理解する							
第12回	『地域包括支援センター』の役割と業務		地域包括支援センターの目的、地域包括支援センターの中核的業務、地域における医療と介護の連携について学ぶ							
第13回	権利擁護について		権利擁護の概要、権利が侵害される状況、消費者被害や虐待等について学ぶ							
第14回	高齢者虐待と人権を守る制度		高齢者虐待について、対応する機関や成年後見制度を用いた虐待対応について理解する							
第15回	地域との窓口『地域(医療)連携室』の役割と業務		地域（医療）連携とは、地域（医療）連携室の業務・メリット、地域との連携の実際について学ぶ							
評価方法及び評価基準	<p>授業への参加度45%、定期試験55% ※単位取得には60%以上の評価を要する。 ※定期試験は論述式とし、授業の内容を理解しているかを評価する。</p>									
課題等	特になし。									
事前事後学修	特になし。									
教材教科書参考書	<p>参考書：新社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法』中央法規出版 ISBN978-4-8058-5105-0 ※講義においては講師が作成したレジュメを中心に授業を行う。</p>									
留意点										

科目名	精神保健		科目ナンバリング	N-FN HS 1-17.H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N20021	時間	15時間				
区分	看護基礎科目	選択	担当者名	川村 泰子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	<p>こころの健康をとらえることは生き方を考えるときに極めて重要である。人生で出会う様々な事柄と精神の健康について、発達段階や生活環境を捉えて理解を深める。また、地域や学校、職場でのこころの健康課題、精神に障がいをもつ人への支援システムなどを学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 4, 6に関連し、カリキュラムポリシーの3, 4に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1) こころの健康についての考え方、影響することがらについて理解できる。</p> <p>2) こころの健康の保持・増進、精神障害者の医療とリハビリテーションについて理解できる。</p> <p>3) 精神保健施策の現状を理解し、これからの精神保健の課題を考えることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	精神保健で扱われる現象			人々の暮らしと精神保健福祉 (DVD)災害時の精神保健						
第2回	ライフサイクルと精神保健 1			乳幼児期・学童期：思春期における精神保健 (DVD) 妊娠期・育児期の精神保健						
第3回	ライフサイクルと精神保健2			青年期・成人期・老年期における精神保健						
第4回	精神保健活動の実際と今後の課題1			精神保健の歴史と精神保健福祉施策の概要						
第5回	精神保健活動の実際と今後の課題2			精神保健活動の展開 (DVD)					グループワーク	
第6回	精神保健活動の実際と今後の課題3			精神保健活動の展開					プレゼンテーション グループワーク	
第7回	精神保健活動の実際と今後の課題4			ストレスと精神保健 (DVD)ストレスが人々の心に及ぼす影響						
第8回	精神保健活動の実際と今後の課題5			精神保健における個別課題への取り組み						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 2/3以上の出席者について、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて、総合的に評価する。 定期試験 80% レポート15%</p> <p>2) リフレクションペーパー：すべての授業終了後に提出することで、5点を加算する。</p>									
課題等	レポートおよびリフレクションペーパーは返却しない。リフレクションペーパーに記載された質問には次回講義で解説をする。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書を読んでください。必要時レポートを書いてもらいます。									
教材 教科書 参考書	教科書：精神保健福祉 医学書院 ISBN：978-4-260-04218-5 随時、資料の配布や参考図書を紹介する。									
留意点	授業で紹介された文献、精神保健を取り巻く社会の状況に関心を持ち、ニュースなどを読み考え自己学習を積み重ねることが重要です。									